

# シンポジウム 都市史研究の最前線「都市と大地」シリーズ

## 第3回『都市化の比較史—土地の近代』

主催：日本建築学会 建築歴史・意匠委員会 都市史小委員会

日時：2016年12月17日（土）10:00～17:40

会場：明治大学駿河台校舎リバティータワー12階 1123 教室（東京都千代田区神田駿河台 1-1）

### <主旨>

本シンポジウムは、2014年からの「都市と〈大地〉」シリーズの3回目である。これまでの企画（「都市史の基層としての大地・地面・土地を考える」「都市とテロワール——耕される大地と資源」）では、「都市における諸活動が〈大地〉の条件によって拘束される側面」をおもにクローズアップしてきた。続く今回は、逆に「都市における諸活動が〈大地〉の条件から格段に自由になる過程や局面」に光をあてることで、あらためて「都市にとって〈大地〉とは何か」を複眼的にとらえなおす機会としたい。

あらためて議論の俎上にのせるのは、上記（〈大地〉からの遊離性）の度合いが高まった近代という時代における〈大地〉、なかでも土地の問題である。周知のようにこの時代（産業革命以降）には、多くの都市およびその周辺地域では、急激な人口増加、またそこに住む人びとの生活様式や社会関係などが変貌を遂げる現象＝都市化が起き、その流れは現在までとどまるところを知らない。ところで都市化は、まずもって、当該エリアの土地のあり方（所有・利用の主体、形態、価値観など）の動揺と再編をうながすとともに、さまざまな背景を持つ多数の人びとの移動（移入・移出）を担保する生活空間の構築をともなると考えられるが、そのくわしいメカニズムはいまだ明らかでない。従来の都市化をめぐる歴史叙述は、たとえば東京では関東大震災（外在因子）の影響が重視されるあまり、こうした土地と人びとの関係性に則して内在的に理解する視点に乏しかった。

本シンポジウムでは、まず20世紀初頭における東京（おもに都市近郊・郊外の農地における変貌を想定）の実相にせまり、後半では他都市や地域、また前近代の江戸におけるありようを議論し、それら相互の比較・対照をはかる。これらをつうじて、今後研究を進めていくうえで不可欠な基本的事実の発掘とともに、都市の近代化・現代化の共通性や個別性（地域差）についてのあらたな知見や議論の展開が期待できるだろう。なお、本シンポジウムでは、以上のような研究テーマをめぐる、近年成果の著しい経済史学から報告者およびコメンテーターを迎えて、問題関心・論点の共有をはかり、あらたな学際的研究領域をひらくことにもこころみたい。

### <プログラム>

10:00-10:10	趣旨説明	松山 恵（明治大学）
10:10-10:55	「土地整理と社会変容」	高嶋修一（青山学院大学）
10:55-11:40	「戦間期の東京郊外における生活空間の構築（仮）」	小野 浩（熊本学園大学）
11:40-12:25	「東京の郊外化の担い手——荏原郡を中心とした分析」	田中 傑（東京大学）
12:25-12:55	コメント	中川 理（京都工芸繊維大学）、初田香成（東京大学）
12:55-14:00	昼食	
14:00-14:45	「大阪を中心とする土地経営と生活空間の近代（仮）」	中嶋節子（京都大学）
14:45-15:30	「セントラルパーク登場前後における住宅地開発戦略の変容——都市緑地建設の担い手と受益者」	鈴木真歩（日本女子大学）
15:30-16:15	「江戸町方の土地空間にみる近世性と近代性」	高橋元貴（東京大学）
16:15-16:45	コメント	名武なつ紀（関東学院大学）、松本 裕（大阪産業大学）
16:45-17:00	休憩	
17:00-17:40	全体討論	

参加費：会員 1,500 円、会員外 2,000 円、学生 1,000 円（資料代含む、当日会場でお支払いください）

定員：60名（申し込み先着順）

申込方法：Web 申し込み <https://www.ajj.or.jp/index/?se=sho&id=1608> よりお申し込みください

問合せ：日本建築学会事務局 研究事業グループ 一ノ瀬 TEL：03-3456-2051 E-mail：ichinose@ajj.or.jp